

第42週(10月12日～10月18日)トピックス:<エムボックス>

京都市のエムボックスの届出が、今週及び第40週に各1例あり、本市の累積報告数は4例となりました。

本感染症は、主にアフリカ中央部から西部にかけて流行していましたが、2022年5月以降、世界各地で発生が報告されるようになり、日本でも、2022年7月に1例目の患者が確認された後、2023年には年間225例と増加、2024年(14例)、2025年(17例)は一旦減少しましたが、本年は42週時点で既に149例と再び増加しています。届出のあった医療機関の多くは東京都で、加えて周辺の関東圏で数例となっていますが、近畿でも報告数は少ないものの、大阪府を中心に数例の報告が続いており、今後の発生状況に注意が必要です(表1)。

本感染症は感染症法上の4類感染症(全数把握疾患)に指定されており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所への届け出が義務付けられています。診断・行政検査・届出の流れ等の詳細は、下記URL「エムボックス診療の手引き」を御参照ください。

エムボックスは、オルソポックスウイルス属のエムボックスウイルスによる感染症です。エムボックスウイルスには大きく分けてクレードIとクレードIIの2つの系統があり、さらにサブクレード(例:Ia/Ib、IIa/IIb)に区分されます。以前はクレードIはクレードIIと比較して致死率が高いという報告があったものの、現時点ではいずれのクレードでも致死率は過去の報告より低く、適切な治療によりさらに低下すると報告されています。なお、Global Mpxv Trendsによると、現在日本はクレードI bの流行国とされています(図1)。

エムボックスウイルスはアフリカに生息するげっ歯類が自然宿主と言われており、感染動物との接触が主な感染経路でした。しかし、2022年5月以降の世界的な流行となったのは、主にMSM(Men who have sex with men)を中心としたヒトからヒトへ性的接触によるものです。感染した人の血液、体液、皮膚病変(発疹部位)との接触や患者が使用した寝具との接触、患者との接近した対面での飛沫への長時間の曝露が感染経路となります。

感染すると7～14日の潜伏期の後に発熱、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹等の症状が現れ、発熱後数日で全身に発疹が現れます。多くの場合、2～4週間で自然治癒しますが、免疫不全がある場合や小児においては重症化リスクが高く、死亡した症例の報告もあります。

予防には、手洗い、消毒等の基本的な感染対策が有効です。性的接触による感染対策としては、コンドームを使用し、不特定多数の人や発疹などのエムボックスの症状がある人との性交渉を避けるなど、リスクのある行為を避けることが大切です。また、海外の流行地では、げっ歯類などの動物との接触を避けましょう。

●エムボックス診療の手引き第4.0版(厚生労働省ホームページ)

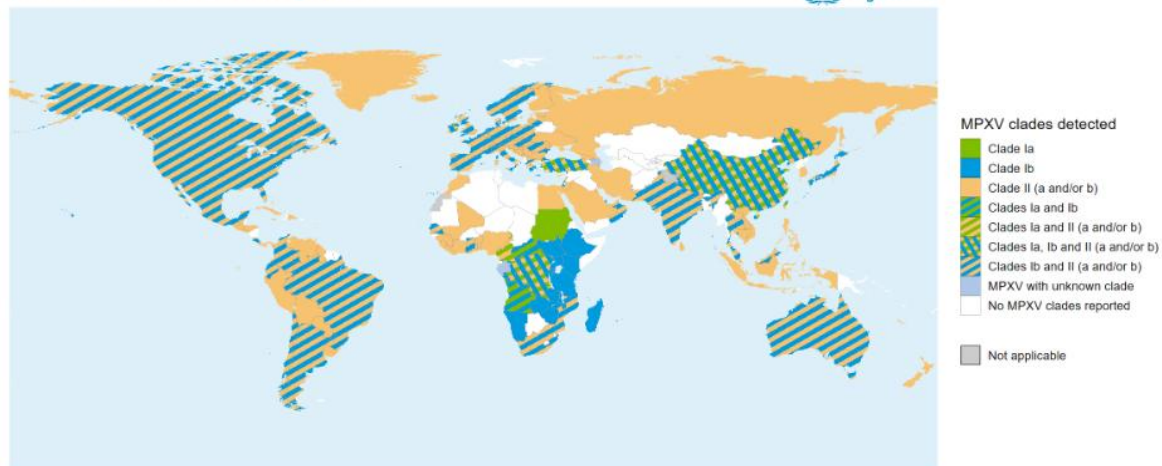
<https://www.mhlw.go.jp/content/001683955.pdf>

(表1)エムボックス国内発生状況

	2026年(～42週)	2025年	2024年	2023年	2022年	総患者数
全国患者数	149	23	19	225	7	423
県別						
東京都	116	17	14	168	5	320
千葉県	2	0	0	5	1	8
神奈川県	9	0	2	5	1	17
埼玉県	0	0	0	5	0	5
大阪府	9	2	0	22	0	33
その他道府県	13	4	3	20	0	40
近畿2府4県(再計)	15	4	1	23	0	43
京都市(再計)	2	1	1			4

MPXV clades detected globally (図1)エムボックス地域別クレード*型別発生状況

Includes imported cases; known distribution from 1 January 2022 to 26 August 2026.
This map will not be updated moving forward.



The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of WHO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization
Map Production: WHO Health Emergencies Programme
© WHO 2026. All rights reserved.

Global Mpxv Trendsから引用